

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202072		
法人名	有限会社 いろりケアサービス		
事業所名	グループホーム大樹		
所在地 (電話番号)	静岡県葵区竜南1丁目16-35 (電話)054-247-1071		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡県葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年10月23日		

【情報提供票より】(20年9月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.1人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有 150,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり 1,200円		

(4)利用者の概要(10月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	62 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉川医院,フタバ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、近くに学校やスーパーマーケット、医療機関がある住宅地に建てられ、暮らしやすい環境に恵まれている。一人ひとりの生活の場が、利用者の安心と共に提供されており、利用者の笑顔や「ここはお城です」という利用者の言葉からもその様子がうかがえる。苦情等に対しても、管理者、職員が皆で取り組み、利用者へのより良い援助につなげている。またホーム内も落ち着いた雰囲気、ゆとりのある空間作りが行われ、居室もそれぞれ工夫がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	チームケアのための会議を毎月開催し、活発な意見交換により、サービス提供の検討が行われている。ユニット入口の施錠については、現在利用者の状態を考慮し、家族にもご理解を頂いて継続している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行い、難しいがやってみて気付くことも多く、よい機会になったと考えている。「地域との交流が必要」という意見が出され、地域行事に参加したり、外出時は積極的に挨拶や言葉掛けを行うなど、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	近隣の施設や町内会、民生委員、行政、家族の参加を得て開催している。運営、行事等への意見を聞き、町内会の行事にもスムーズに参加できている。定期的開催されているので、今後、災害時等の協力体制なども検討されたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者・家族等の意見を聞きながら、介護計画を作成し理解を得ていたが、家族からの苦情が発生するケースがあった。行政と相談しながら納得していただけるよう話し合いを行い解決を図った。日頃から信頼関係の構築に努め、安心できるサービス提供を行えるよう管理者、職員で努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設後3年が経過し、近隣住民からもホームへの理解が少しずつ広がっている。外出時や買い物等に出かけた時も、挨拶や言葉掛けを積極的に行うことにより、良い関係作りができてきている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お年よりの尊厳を大切にする」との理念を掲げ、利用者がホームでの生活を安心して送れるようなサービス提供を心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を理解できるように、職員会議で話し合いを行い、利用者本位の生活ができるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、活動等に積極的に参加しており、利用者も楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で行った。外部評価の結果は、職員で共有し、運営推進会議でも課題として取り上げ、サービスの質の向上につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、行政担当者、地域包括支援センター職員、近隣事業者、家族等の参加を得て開催し、ホームの生活や、行事等の報告を行っている。町内会長や他の事業者の参加もあり、協力体制を作り、運営に活かしている。	○	非常災害時等、双方向の協力体制の構築を検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での関わりはあまりないが、家族からの苦情対応の際は、相談に乗ってもらった。	○	日頃から、定期的に事業所の実情を伝える機会を作り、積極的な連携に取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や体調の変化のある時には電話連絡を行っている。金銭については小遣帳をつけ報告している。	○	報告は、家族との信頼につながることであり、また面会の少ない方や訪問ができない方もいるので、便りやお手紙等、報告の仕方を工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他家族会を年2回開催している。苦情対応について、契約書等で説明し、改善結果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任の職員は家族会や、面会時に紹介している。ユニット間の職員の異動は、定期的に少人数で行い、利用者への影響を最小限に抑えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に参加している。回覧や会議等で他の職員にも報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームや、他の施設の管理者に運営推進会議に参加してもらったり、研修を一緒に行ったりして交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時には、本人、家族にホームを見ていただけるよう訪問をお願いしている。できない方に対しては、職員が訪問してスムーズに利用を開始できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や片付けを一緒に行ったり、利用者の得意なことを引き出し、絵の得意な方には、他の利用者が一緒に楽しめるよう支援を行うなど、支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者、介護支援専門員が利用者の希望や、思いを聞き取り、困難な場合は、家族等から話を聞き、意向の把握に努め、利用者本位の生活ができるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞きながら、担当の職員が、関係職員の意見も取り入れて考え、それを基に介護支援専門員がまとめ、ケース会議で確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化時には、その都度、変化が見られない時でも、3ヶ月毎に評価を行い、家族の意見を聞きながら見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に合わせ、個々の買い物に行ったり、外食に出かけたりしている。	○	利用者や家族の状況を把握し、事業所の多機能性を活かした新たなサービスの提案にも取り組まれない。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、家族が行っているが、緊急時等必要に応じて、ホームで受診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の協力もあり、ホーム内での看取りも行っている。家族と話し合い、方針を職員間で共有している。	○	対応のあり方について、早い時期から話し合いを重ねる機会を持ち、関係者間で方針を共有することが求められる。夜間帯、職員が少なくなるので、連絡体制を整えたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮し、職員会議や研修で勉強している。書類等の保管場所や個人情報の取扱いにも注意している。	○	外来訪問者名簿が玄関口にあり、様々な人が目にするので、取扱いを工夫されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の意思を大切に、買い物や外食に出かけたり、趣味を楽しんだり、なるべく一人ひとりのペースに合わせた暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から調理、食事、片付けまで、職員と一緒にやっている。食事中はテレビを消して、音楽を流したり、会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞きながら、時間を決めて支援している。夏場は、利用者の希望で毎日の入浴を行っている。	○	利用者の希望やタイミングに合わせた支援が行えるように、体制を工夫されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵を描いたり、食事の準備や片付け、掃除等、利用者の得意とすることを職員も一緒に行ったり、見守りながら支援している。本人の状態に合わせた言葉がけを心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩へは毎日出かけている。また食材の買い物や、個々に買いたい物があれば、担当職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っていないが、現在、利用者の状況を考慮し、家族の了解を得て、ユニットの入り口を施錠している。	○	施錠を常態化させず、利用者の様子観察や見守りを行いながら、鍵をかけなくてもよい方向に工夫されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の参加により防災訓練を行っている。非常食、簡易トイレを用意している。	○	災害発生時には、近隣や職員の応援が必要となるので、運営推進会議で働きかけたり、職員の連絡体制を整えられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は各ユニットで、利用者の希望を聞きながら作成している。水分摂取量をチェックし、食事量等、配慮の必要な人には個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が広くゆったりとした造りになっている。天井には古民家で使っていた梁を渡し、廊下、居室、床も木材を使って、落ち着いた雰囲気居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ゆったりとしたスペースがあり、押入れなどの収納スペースも十分確保されている。テレビや写真、絵画等それぞれの好みで置かれ、居心地のよい居室作りを支援している。		